

sendmailのオプション

オプション

sendmail には、設定することができる多くの処理オプションがあります。

AliasFile= <code>file</code>	別のエイリアスファイルを使います。
HoldExpensive	接続するのに時間がかかるホストと接続するときは、すぐに接続せず、リクエストはキューに入れられます。
CheckpointInterval= <code>N</code>	sendmail が、 <code>N</code> 個の配送に成功するたびにキューファイルにチェックポイントを設定します(デフォルトは 10 個です)。これによって、システムのクラッシュによって長いメーリングリストの配送が中断されたときでも、再開時に同じ人に重複して配送されることを防ぎます。
DeliveryMode= <code>x</code>	配送モードを <code>x</code> に設定します。配送モードには `i` 対話的(同期的)配送モード、`b` バックグラウンド(非同期的)配送モード、`q` キューモード(実際の配送は、キューが実行される時に行われる)、`d` 延期モード(<code>-D</code> オプションで指定されたマップ(デフォルトはホストマップ) に対しデータベースの検索が行われない以外は `q` と同じ)があります。
ErrorMode= <code>x</code>	エラー処理をモード <code>x</code> に設定します。有効なモードとして、`m` はエラーメッセージを送り返します。`w` はエラーメッセージを送り手の端末に書き出します(送り手がログインしていなければ、メールを返します)。`p` は、エラーメッセージを端末に表示します(デフォルト)。`q` は、エラーメッセージを捨てます(exit コードだけを返します)。`e` は、BerkNet 用に特別処理をします。もし、モード `m` や `w` を使っている場合に、エラーとなったメッセージがエラーメールとして送り返されず、送り手が sendmail を実行しているマシン上のユーザならば、メッセージのコピーは送り手のホームディレクトリにある <code>dead.letter</code> に追加されます。
SaveFromLine	メッセージのはじめに UNIX-style の From 行を残します。
MaxHopCount= <code>N</code>	メールがループしていると判断されない、最大のホップ数を指定します。
IgnoreDots	`.'` だけを含む行をメッセージの終わりとして解釈しません。
SendMimeErrors	エラーメッセージをMIMEフォーマットで送り返します。設定されていない場合は、DSN (Delivery Status Notification: 配送状況通知) SMTP 拡張は無効になります。
ConnectionCacheTimeout= <code>timeout</code>	コネクションキャッシュのタイムアウトを設定します。
ConnectionCacheSize= <code>N</code>	コネクションキャッシュのサイズを設定します。
LogLevel= <code>n</code>	ログレベルを設定します。
MeToo= <code>False</code>	エイリアスに自分自身が含まれていても、``me"(送り手自身)には送りません。
CheckAliases	<code>newaliases(1)</code> コマンドの実行の際、エイリアスの右辺(エイリアスの値)の有効性をチェックします。
OldStyleHeaders	このオプションが設定されていれば、メッセージが古いスタイルのヘッダを持つことがあることを意味します。このオプションが設定されていない場合は、このメッセージが新しいスタイルを持っていることが保証されます(2 つのアドレスの間はスペースのかわりにコンマで区切られます)。このオプションが設定されていると、ヘッダのフォーマットをたいていの場合に正しく決定する適応アルゴリズムが用いられます。
QueueDirectory= <code>queuedir</code>	キューメッセージを保存するディレクトリを選択します。
StatusFile= <code>file</code>	指定した名前のファイルに統計情報をセーブします。
Timeout.queuereturn= <code>time</code>	キューのなかの配送されなかったメッセージのタイムアウト時間を設定します。この時間内に(ホストのダウンなどにより)配送が行われなかったときには、失敗した旨のメッセージが送り返されます。デフォルトは 5 日です。
UserDatabaseSpec= <code>userdatabase</code>	セットした場合、ユーザデータベースを見て、フォワード情報を得ます。この方法をエイリアス機構の補助として使用する事ができます。この方法は、データベースが分配されることを意図している点が異なります。一方、エイリアスは、そのホストローカルでのみ有効です。 sendmail が USERDB 付きでコンパイルされていなければ使うことはできません。
ForkEachJob	キューを処理する間、各ジョブごとに <code>fork</code> を行います。メモリが少ないマシンでは便利です。
SevenBitInput	到着するメッセージを 7 ビットにします(8 ビット目は落します)。
EightBitMode= <code>mode</code>	8 ビットの入力を 7 ビットの宛先へ送る場合の処理方法を <code>mode</code> に設定します。処理方法には、 <code>m</code> (mime 化) 7 ビット MIME 形式へ変換、 <code>p</code> (パス) 8 ビットのまま配送(プロトコルには違反します)、 <code>s</code> (厳密) メッセージをバウンス、があります。

MinQueueAge= timeout	配送の試行の間、ジョブがキューに蓄積される時間を設定します。
DefaultCharSet= charset	文字集合が特に指定されていない 8 ビットデータにラベル付けする際に用いる、デフォルトの文字集合を設定します。
DialDelay= sleeptime	コネクションの確立が失敗した場合に、再試行までに sleeptime だけスリープします。オンデマンドでダイヤル接続するサイトでの使用に便利です。
NoRecipientAction= action	受け手ヘッダ (To:, Cc:, Bcc:) がいない場合の動作を action に設定します。 none メッセージを変更しない、 add-to エンベロープで指定された受け手を入れた To: ヘッダを加える、 add-apparently-to エンベロープで指定された受け手を入れた Apparently-To: ヘッダを加える、 add-bcc 空の Bcc: ヘッダを加える、 add-to-undisclosed `To: undisclosed-recipients:;' というヘッダを加える、という動作を指定できます。
MaxDaemonChildren= N	待ち受け SMTP デーモンが同時に生成する子プロセスの最大数を N に設定します。
ConnectionRateThrottle= N	SMTP ポートへの 1 秒当りの最大コネクション数を N に設定します。

エイリアスのなかで最初の文字が `|' で始まるものは、メールの内容をパイプでコマンドに送るものと解釈されます。 **sendmail** に引数の間から空白文字を削除させないようにする場合は名前をクォート (") でくくる必要があります。

《例》

```
msgs: "|/usr/bin/msgs -s"
```

エイリアスには、 ``:include: filename " という文法もあります。

sendmail は、メールの受け手のリストを得るために、指定されたファイルを読みます。

《例》

```
works: ":include:/usr/local/lib/works.list"
```

この場合、 /usr/local/lib/works.list を読み、 `works' のグループのためのアドレスリストを作ります。